

WEEKLY SIGNAL

平成27年7月3日(金) 1281号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/6(月)	7/7(火)	7/8(水)	7/9(木)	7/10(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 1,300	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 22,300	+ 1,000	△ 2,000	△ 5,000	△ 21,000
資金需給	不 21,000	余 2,000	不 2,000	不 5,000	不 21,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)			10年物価連動債発行	国庫短期証券発行・償還 (6M)
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,300 CP等買入 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800 ETF買入 + 200	国債買入 + 17,500 短国買入 + 7,800			
(日本)	日銀全国支店長会議 黒田日銀総裁挨拶 さくらレポート(7月) 車名別新車販売(6月) 景気動向指数(5月)	日本銀行の対政府取引(6月) マネターベースと日本銀行の取引 (6月) コール市場残高(6月)	貸出・預金動向(6月) 企業倒産(6月)	機械受注(5月) 対外対内証券売買 マネーストック(6月) 工作機械受注(6月)	企業物価指数(6月) 中古車販売台数(6月) 消費動向調査(6月)
(海外)	米 ISM非製造業景況指数 (6月)	米 貿易収支(5月) 米 求人件数(5月) 独 キリシヤ大統領演説(ベルリン)	米 FOMC議事録 (6月16、17日分) 米 サンフランシスコ連銀総裁講演 米 消費者信用残高(5月)	米 新規失業保険申請件数 米 ブレイナードFRB理事講演	米 イエレンFRB議長講演 米 卸売在庫(5月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、短国買入・国債買入オペ等により継続的に資金供給されたため、月末に229兆円台まで増加したが、税揚げ日(2日)に226兆円台に減少し、228兆円台で越週した。無担保コールON物は週初0.07%台で取引されていたが、四半期末初物(30日)は調達ニーズが減退したことから0.001~0.005%の出会いが中心となった。期末初要因が剥落したことと1日は0.04~0.06%台、2~3日は概ね0.07%台で推移した。その結果、今週の無担ON物加重平均金利は0.011~0.075%のレンジで推移した。6月末越えの資金需要は限定的で、ターム物は動意に乏しい展開であった。1日、日銀短観が公表された。業況判断DIは大企業製造業でプラス15(3月調査時はプラス12)と3四半期ぶりに改善したほか、大企業全産業の2015年度設備投資計画は9.3%増と6月調査では2006年以来の高水準となった。

来週の材料としては、国内は日銀支店長会議における黒田日銀総裁挨拶、さくらレポート(6日)、海外はFOMC議事録(6月16-17日分)(8日)やイエレンFRB議長講演(10日)等が挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.070 ~ 0.090
TDB 3M	△0.010 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約7,900億円で、期落ち額約2,700億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。期末に有利子負債を圧縮していた事業法人に、復活発行する動きが見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.090%近辺~0.110%近辺で推移した。

現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約6,000億円程度となっている。

<TDB>

2日に国庫短期証券3M第542回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0000%(前回債0.0000%)、平均落札レートは△0.0024%(前回債△0.0012%)と前回債から利回りはほとんど変化は見られなかった。セカンダリーは3Mで△0.005%近辺の出会い。6M、1Yは目立った出会いは見られなかった。来週8日に6M、9日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCはマイナスレートでの出会いとなった末初物と比べ、受渡日が7月に入ったこともあり、レートが上昇しプラス圏0.02%台半ば~0.03%台での出会いからスタートした。また週央には、約定日が7月にはいったことや短国3M や10年債の発行により、資金調達意欲が高まりレートが上昇、0.055%~0.06%台の出会いが広がった。週末には短国買入オペが1兆7500億円オファーされたこともあり、レートが低下。0.01%台~0.02%台での出会いとなった。SCは10年336・337・338回債がO/N物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。2年債は351・352・353回債、5年債は123、124回債、10年債は323・325・329・337・338・339回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。